

『外国での学習履歴の審査』および『海外で修得した単位の認定』に関する実態調査
回答結果（概略）

平成26年10月
(独) 大学評価・学位授与機構

1. 調査の背景

近年の学生の国際的な流動化拡大に伴う、外国からの学生を受け入れる大学の増加やわが国の学生の海外での修学機会の増加傾向のなか、大学では、外国において学習経験を有する学生の受入れの際の資格や、学生が海外の教育機関で修得した単位等に関して、適切な審査と認定が求められている。国際的にも、国境を越えた高等教育へのアクセスを容易にするために、大学等におけるこれらの資格審査、認定手続き、および基準等について、透明性、一貫性、信頼性、公平性を確保することが重要と認識されている。

こうした情勢を踏まえ、大学評価・学位授与機構は、学生の国際的な移動に伴って大学等に必要とされる支援の在り方を検討するため、文部科学省と協力して、わが国の全大学を対象とした実態調査を行った。

2. 調査の目的および内容

本調査は、外国での学習経験を有する学生の受入れの際の資格審査や、学生が海外の教育機関で修得した単位の認定手続きに関して、大学における確認過程および内容の実態や必要とされる情報の把握を主な目的として実施した。対象者は、これらの実務に携わる大学の教員および職員とし、実務担当者の個人の意見を集約することとした。

調査名称： 「外国での学習履歴の審査」および「海外で修得した単位の認定」に関する実態調査
方 式： オンライン・アンケート
実施時間： 平成26年2月26日～4月15日

2.1 アンケートの目的

外国で取得された資格・学位および単位について、日本の大学では、それらを受け入れる際に、
①どのような確認を行っているか ②どのような情報を必要としているか
以上について、明らかにすることを目的とする。

2.2 アンケートの種類・対象者

○アンケートⅠ： 外国での学習履歴の審査 — 入学（出願）資格審査—

IA： 学部（学士課程）入学時 IB： 研究科（大学院課程）入学時

〈対象者〉 大学が実施する入学者選抜試験において、外国での学習履歴を有する出願者の入学（出願）資格審査に携わっている教員と職員

○アンケートⅡ： 海外で修得した単位の認定

IIA： 学部（学士課程）入学時 IIB： 研究科（大学院課程）入学時

〈対象者〉 海外で修得した単位の認定審査に携わっている教員と職員

2.3 回答者数

アンケート種別	回答者数	アンケート種別	回答者数
IA (外国での学習履歴の審査：学部)	484	IIA (海外で修得した単位の認定：学部)	469
IB (外国での学習履歴の審査：研究科)	468	IIB (海外で修得した単位の認定：研究科)	425

※国公立の全764大学の教育担当副学長および国際担当副学長宛てに調査依頼状を送付。

※回答者の半数以上が私立大学、また、8割が事務職員からの回答であった。

3. アンケート結果の傾向

3.1 アンケートⅠ：外国での学習履歴の審査

- 出願資格確認のために用いる書類：教育機関の発行した証明書のほか、資格を証明する公的機関の証明書や第3者機関による証明書の日本語・英語翻訳を活用。
- 出願資格に関する確認情報：高校卒業資格・学位の確認、教育を受けた合算年数の確認が圧倒的に多く、出身校の当該国における認可やアクレディテーション状況の確認は一定数に留まる（24～30%）
- 出願資格の確認過程で利用する情報：担当職員の経験と知識や一般に無料で公開されているWEB情報に頼っている。
- 書類の真贋性：疑いの実績があるとの回答は、7～9%。
- 情報収集が困難な地域：中国が圧倒的に多く、また、アジア、アフリカ、中東地域が多かった。
- 出願資格の審査業務の困難度：約7～8割がやや困難もしくは困難と感じている。【図1-1、1-2】
- ニーズ：第3者機関による情報提供サービスがあればよいと考えたことがあるとの回答は、78～80%。具体には、諸外国の教育制度や資格・単位システムの情報提供のニーズはある。必要な情報としては一般的な教育制度、標準修業年限、真偽の判別のための情報の希望が多い。【図2】

『諸外国の初等中等教育』（2002年、文部科学省編）や『諸外国の学校教育（アジア・オセアニア・アフリカ編、欧米編、中南米編）』（1995、1996、文部省編）を参照している回答も複数あり。

図1-1：出願資格の確認等の業務にかかる困難度（学士課程入学時）

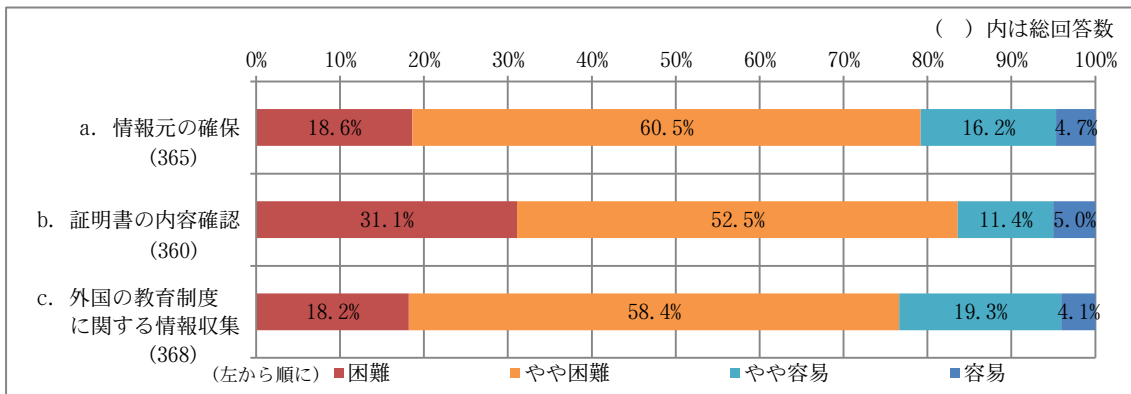


図1-2：出願資格の確認等の業務にかかる困難度（大学院課程入学時）

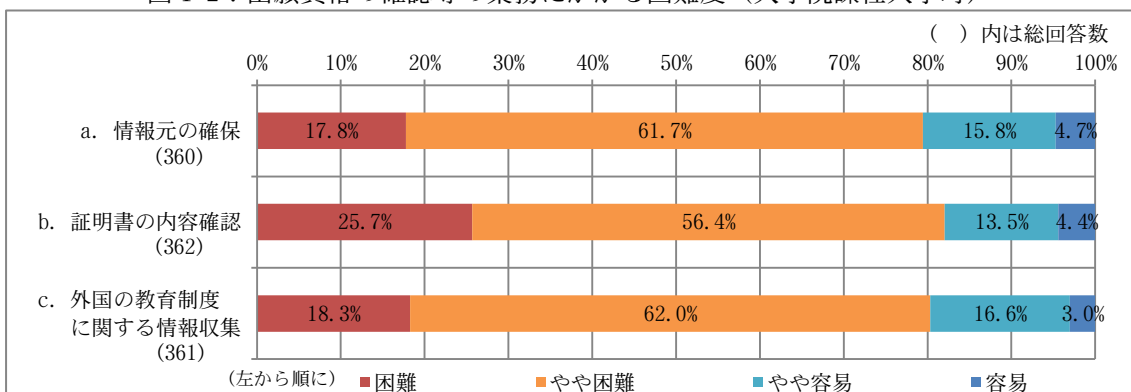
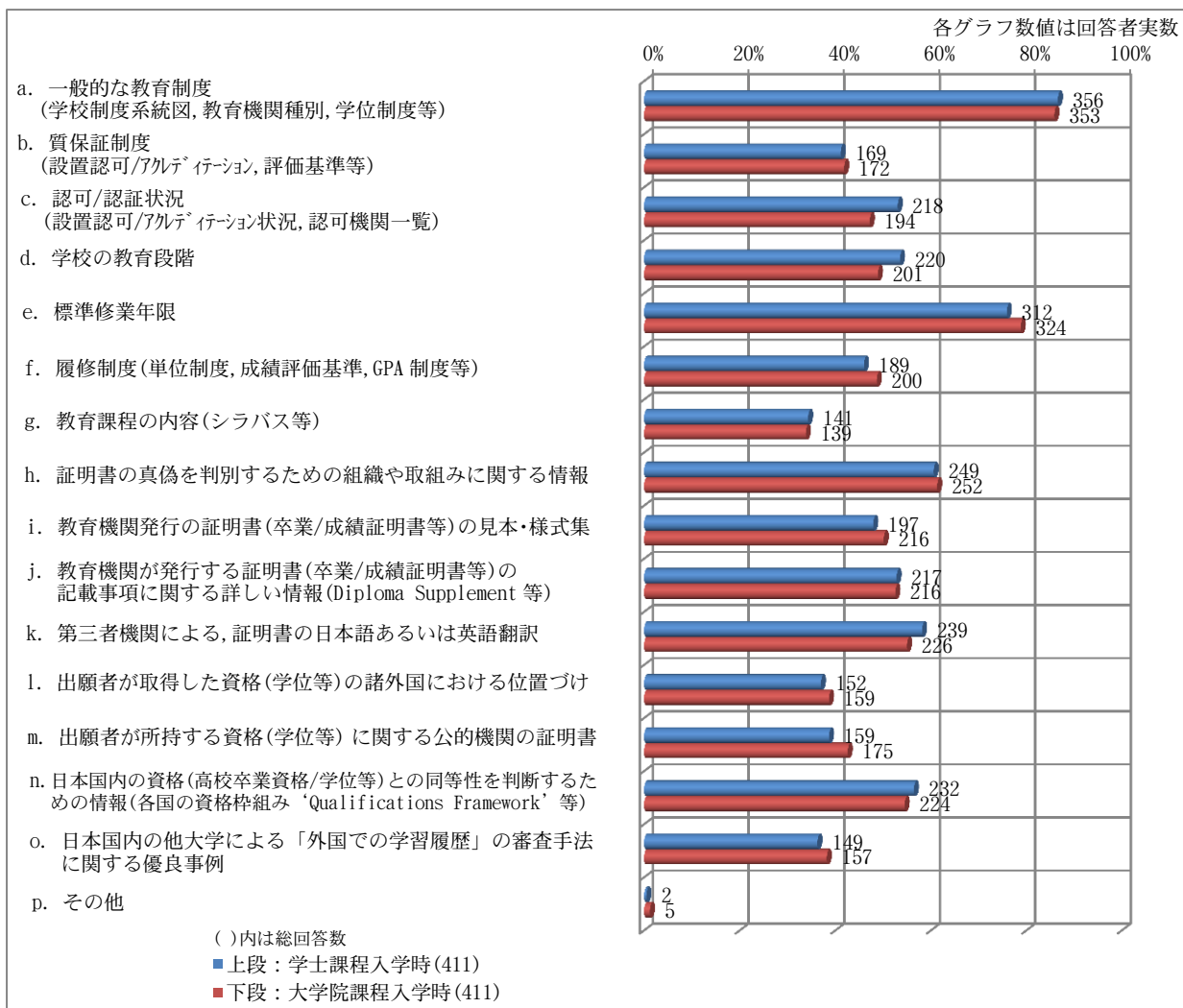


図2：期待する情報提供の内容（複数回答、回答者：教員または出願資格の確認を担当している職員）



3.2 アンケートII：海外で修得した単位の認定

- **単位認定審査**で見ている要素：**授業時間数、講義内容、成績評価**。学習成果や当該教育機関の単位制度・成績評価等にかかる情報確認は、相対的に少ない。
- **確認情報**：協定校以外の単位の場合、教育機関の認可やアクリディテーション状況の確認をしているとの回答は一定数に留まる（必ず確認しているケース 35～40%）
- **成績評価の認定**：大半が成績評価の認定を行っていない。認定を行っているのは全体の2割程度で、成績の読み替えを実施。
- **単位認定の審査過程**で利用する情報：教員や職員の経験と知識に頼っている。一般に無料で公開されているWEB情報確認や当該教育機関への照会も行われている。
- **書類の真贋性**：疑いの実績があるとの回答は、2～4%。
- **出願資格の審査業務の困難度**：約6～7割がやや困難もしくは困難と感じている。
- **ニーズ**：第3者機関による情報提供サービスがあればよいと考えたことがあるとの回答は、55～59%。必要な情報としては一般的な教育制度、履修制度、教育課程の内容にかかる情報の希望が多い。

本実態調査の集計結果は、大学評価・学位授与機構ウェブサイトに掲載しています
http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/qa/mobilitysurvey_1542.html